



全員野球



川崎ゆきお

その野球チームは、そこそこ成績がいい。新しく来た監督のおかげだ。強豪チームとまではいかないが、安定した成績を残している。

ある企業のマネージャーが、監督と会い、その秘訣を聞いた。

「うちは、繋げない野球なんです。個人プレイメインでしてね」

「それは、米国式ですか」

「個人式です。その個人たちが、どう振る舞うかは自由なんです。こうしなさいとは言わない」

「つまり、個人の自覚の上で成り立っているわけですね」

「まあ、そうですが、高校生ですからね。それほど自覚云々は問いませんよ」

「じゃ、放任主義なんですか」

「試合をやるのは選手ですから。監督は特に何も致しておりません」

「でも野球はチームプレイでしょ」

「チームを組んでいるだけですよ」

「先ほど、繋げない野球とおっしゃいましたが、どういうことでしょうか。普通は繋げる野球でしょ」

「繋がる時は自然に繋がります。いくら繋げようとしても、三振じゃ、繋がらないでしょう。ヒットは偶然です。そんなもの信じていません。だから、繋がらないものなのですよ」

「でも、選手が次に繋げようとするのが大事なのではないですか」

「繋がるものなら、そりゃ、繋げたいでしょ。バントなんて、その例ですね。自分は死にますが、駒を進められます」

「バントはやらせないのですか」

「それは選手の自由ですよ。その気があればやるでしょう」

「指導はどうなさっているのでしょうか」

「してません」

「あ、はい」

「野球なんて、偶然ですよ」

「でも、偶然を生む努力が必要でしょう」

「運です。運」

「でも、成績が安定していますねえ。運なら、もっとばらつきがあるはずですよ」

「野球はピッチャーですよ。打たせなければ、負けはしません」

「では、打者より、投手の指導に重点を」

「いや、何もしておりません」

「先発とか、エースとかいるでしょう」

「くじ引きです」

「はあ」

「打たれれば、交代です。だから、うちはピッチャーが多いですよ。全員ピッチャーなんです。実は」

「ああ」

「つまり、負けない野球なんです。繋ぎがどうの、努力がどうのより、打たせなければいいんですよ」

「では、ピッチャーの指導は？」

「特にしていません。これもねえ、その日によって違うんですよ。成績のいい投手でも、違う日はだめだったりね。だから、投げさせてみないといけません。それで、ヨタヨタしていても、点さえ取られなければ、いくら打たれても続投です。決めごとは、これだけです。点を取られれば、交代」

「その具体的な指導は？」

「個人差があるのですよ。投手はね。だから、一人一人違う。それに投げている本人のほうが詳しいですよ。私が大投手だったとしても、彼らの個々の事情に素人だ。詳しくない。本人にしかわからない」

「じゃ、リーダーとしては、どのような心がけが必要だと思います」

「私はリーダーじゃない」

「でも監督でしょ」

「よけいなことをしないことですよ」

「それじゃ、リーダーとしての仕事が」

「だから、仕事するから、だめなんです。いろいろ面倒なトラブルが起こる。選手も理不尽を感じる。監督なんて目の上の瘤ですよ。いらないんです」

「では、選手の中にリーダーがいて……」

「そういう猿のボスのようなものは、作りません」

「じゃ、ポジションは、誰が決めるのですか」

「申告制です。多いと、抽選です」

「二軍もいるでしょ」

「三年生主体です。一年、二年は、二軍です」

「優秀な二年生とか一年生でも、使いませんか」

「使いません。そのかわり、三年になれば、二軍には回しません」

「じゃ、三年の中でもポジション争いがあるでしょ」

「あります。だから、試合ごとに抽選です」

「はあ？」

「三年は全員レギュラー資格者です。多い場合は、抽選です。毎試合にね。まあ、調子が悪い子は、抽選に参加しませんよ。風邪を引いているとか。最近スランプだとかのね」

「ランダムなんですね」

「野球って、偶然ですからね。それを必然に持ち込むのは無理なんです。しんどいだけです。だから、勝っても偶然。負けても偶然」

「でも繋ぐ野球や、全員野球が……」

「三年生は、全員で野球してますよ。全員出られるのだから。これこそ全員野球ですよ」

「はい、わかりました」

「お役に立ちましたかな」

「いえいえ」

了